

第2520地区  
  
 ひろがれ  
 まわれ  
 一つ心に  
 2018～2019

**MORIOKA**  
 ROTARY CLUB WEEKLY

第30回例会(3月1日)  
 平成31年3月8日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 坂本広行  
 川徳デパート内 幹 事 藤村吉隆  
 例 会 場 同上 TEL 019 (653) 1111(代) 会 報 吉田幸一  
 例 会 日 毎週金曜日12時30分～ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682  
 http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ BE THE INSPIRATION:インスピレーションになろう…バリー・ラシン  
 盛岡RC会長テーマ -80年の歴史と伝統、繋いでいこう奉仕と友情-坂本広行



ゲスト卓話

『ダンスで生きる』

リップス ダンス スクール代表

中條 鈴 様

●スピーカー紹介●

- 2004年 第17回全日本高校・大学ダンスフェスティバル優勝にあたる文部科学大臣賞 受賞
- 2005年 アメリカンダンスドリルチームインターナショナルコンペティション 総合優勝  
新潟市ジュニアスポーツ優秀競技者賞 最優秀賞受賞
- 2011年 新潟市スポーツ大賞受賞  
同作品がアメリカンダンスドリルチームインターナショナルコンペティション本戦のボンボンカテゴリーで 準優勝

最初に自己紹介をさせていただきたいと思います。私は新潟県出身で、小学校4年生の頃から両親の勧めでダンスを始めることになりHip Hopだったり、Jazz danceだったり、チアダンスだったり、いろいろなジャンルをやってきました。経歴では、高校では全国強豪のダンス部に入り、2年時に創作ダンスで全国1位を取ることにになり、高校3年生では世界大会に行き、世界1位を取ることにになりました。Hip HopやJazz、創作（ダンス）を続け、胸を張って「ダンスということでは、できるだけのことをしたかなあ」と自負しております。

高校卒業後は、オリンピック選手がいただくようなスポーツ大賞も新潟県からいただきました。その後、アメリカのロサンゼルスにダンス修業で行ってきました。同じ世界大会のJazz部門で、その時には2位をいただきました。短い期間ではありましたが、ロサンゼルスでダンス修業をして帰国しました。その際に、地元の新潟県にあるアルビレックスという大きなスポーツ団体の専属チームである、アルビレックスチアリーダーズのディ

レクターの方と、たまたまロサンゼルスの同じダンススタジオで出会うことになって、「ぜひとも来ていただけないか」ということでお声掛けいただき、一年間だけアルビレックスチアリーダーズをやることになりました。それと同時に、指導者をしながら子どもたちを今度は同じ世界大会のチアの部門で連れていったとき、世界2位をいただくことになりました。

岩手県では2011年から2016年までの5年間、岩手ビッグブルズの、当時のブルズダンサーズのディレクターをさせていただきました。5年間チアディレクターを続ける中で、ダンスというものは、ひとつのスポーツを応援するだけではなく、もっと社会貢献できないのか、と思い、もっとダンスの可能性を広げたい気持ちからスクールを立ち上げようと思い、2016年からLips Dance Schoolを立ち上げました。

自己紹介は以上となります。本日は、皆様に「ダンスで生きる」というお話をさせていただきます。

上述のように、ダンスというのはバレエだったり、Hip Hop、社交ダンス、チアなど様々あり、

コンテンポラリーなど芸術作品に繋がるようなダンスも主流になってきています。また、現在は、ダンスが小学校・中学校・高校など、学校の授業にも取り入れられています。私も、5年ほど前に文科省からお話を頂き、小学校・中学校に基礎的な授業もしております。スポーツの分野では、海外などは特にですが、チアダンサーはスポーツの応援に必要不可欠な存在となっています。また、チアダンサーというのは、欧米では女性としてのステータスになっています。「良家の子女でなければ、できない」というくくりがあり、学歴や人柄、実力、もちろん見た目なども含めて、チアダンサーとなることはステータスとされています。

私は、ダンスをスポーツという概念で捉えているのですが、世間ではあまりスポーツという概念でとらえられていないのではないかと、という印象を私自身受けます。また、同じスポーツだとしても、他の分野からすると、ダンスには軟派なイメージがあるのではと思っています。しかし、現在のダンスは、社会で求められていることも多くなり、ダンスのイメージがどんどん変わってきています。その中で、授業に取り入れられた理由のひとつに、おそらく“ダンスは言葉に次ぐ、自己表現のツールのひとつ”という点があるのではないかと、私は思っています。ダンスというのは、聴覚と視覚、感覚と、身体を使うことで全神経を使って踊るものです。それにより、具体的な言葉よりも、ちょっと抽象的で受け手の皆さんに想像してもらおうことのできる、表現のツールのひとつになっていると思います。それで、今は授業の中で、もうひとつの表現のツールを教えるため、ダンスが取り入れられているのだらうと思っています。

私は18歳の頃から指導を始め、何百人もの子ども

たちをみてきました。その中には、引っ込み思案で、家族の前でも自分の意見が言えなかったり、お父さんやお母さんと目を合わせられない、そういった子どももたくさんいました。しかし、ダンスを通じて舞台度胸が付き、自分を表現するということを知った子どもたちは、どんどん変わっていきました。もちろん、短期間ではなく、1年、2年とダンスをする中で変わっていき、最後には自ら手を挙げて「私、これをやりたいです」ということが言えるようになったというような子どもたちの変化も、よく見てきました。子どもたちの中で、集中できない子どもたちもいます。そういった子どもたちにとっても、ダンスは目も耳も、手足など全身を使ってダンスをしなければならないので、もの凄く集中することを覚えるようになった、という変化も今まで見てきました。

ダンスは、時代の変化とともに、エンターテイナーとしての需要だったり、企業広告の役割だったり、宣伝力としての価値も生まれています。ダンスにそこまで需要があり、社会に溶け込んでいるという状況の中でも、もの凄く難しい点が1つあります。それは、大人になればなるほど、ダンスを本気で続けられない、という必ずぶつかる壁です。特に岩手はこの問題が大きいと感じています。私は高校の1年生・2年生・3年生と全国大会に出っていますが、岩手からは1校も出ていません。現在も、岩手県にダンス部はなく、同好会はあっても、それはチアが中心となります。私が出ていた全国大会は創作ダンスなので、自分たちでテーマを決めて、音を作って、振りを決めて、衣装を決めて…と、そのテーマを表現するというのをやっていました。しかし、岩手にはそれをやっている学校・部活はありません。岩手では、ダ

ンスは習い事でしか出来ないのです、高校生以上で「やろう」となってもダンスを続ける環境がない。これが大きな問題点です。全国的に、時代的に、ダンスがここまで浸透してきている中で、もの凄くもったいないと私は感じております。

このような“ダンスを続ける上で必ずぶつかる壁”を取り除き、ダンスができる環境を創っていったらどうだろうか、この岩手でそれができないか、と思い、Lips Dance Schoolを立ち上げました。そこでは、子どもたちに教育的な要素を取り上げながら、ひとつのジャンルではなく、色々なジャンルを教えることによって、他のスクールとの差別化をはかっています。なおかつ、教育の需要が高まっている中で、ダンスをする際の“笑顔・姿勢・挨拶・協調”がよく言われていますが、私はこの中に“主張”という要素を入れたいと考えています。子どもたちが自分の言葉で発信して、自分自身でできる。それを伝えられるようなダンススクールを創りたいと思っております。

また、Lips Dancersを創った理由は、いずれ子どもたちが大人になった時に、若い世代の方たちがプロとして活動できる環境を創りたいと思ったためです。プロのチームを創る、と言っても、「上手な子たち」、「きれいな子たち」だけでは活動の意味がありません。「しっかりと地域の皆様に必要とされて、愛されるチームを創らなければならない」と思い、チアに特化させていただきました。色々な方を応援するため、岩手県で頑張る方々、地域、企業様、団体だけではなく、「1人でも頑張っている方が必ずいて、その方を応援する人が必要なのではないか」と思い、Lips Dancersを立ち上げました。また、スクールを運営することで、Lips Dancersに現役の指導者としてのセカンドキ

ャリアも考えています。現役中からスクール講師を同時に始め、指導のノウハウについても教えています。みんなが同じダンスではなく、1人ひとり、得意な分野があり、その得意分野をいずれ、自分のクラスとして開講してもらえれば、と思っています。このようなことを通じて、Lips Dance Schoolにとっても、Lips Dancersにとっても、お互いに役に立つようなことになればいいなと思っております。また、指導者をする際、生徒集めや宣伝、自分自身の周知というのがすごく大変です。「これからダンスの先生をやります。みんな来てください」と言っても、利益を上げられるだけの人数は集まりません。それで、私の方で宣伝して生徒を集めることで、指導者の不安を取り除き、ダンスに集中してもらおうという活動をしています。

スクールは丸2年が経ちました。スクール生は、お蔭様で百名近くになっております。この百名がいつまでも続き、私のスクールの中で夢を持って、いずれ大学進学、あるいは就職のときに「仙台に行かなきゃ」、「東京に行かなきゃ」ということではなく、Lips Dance Schoolから「Lips Dancersになりたい」、「ここでも活動できる」というように少しでも思ってもらい、地元に残ってもらえたらと思っています。

ダンスをする上で大切なこととして心に刻んでいることがあります。その1つは“自己満足の世界からの脱却”です。本当の意味で長く続くダンスは、あらゆる世代の方から愛され、「もっと観たい」と思っただけのことだと思っています。ファッション性や時代の流れにとらわれたダンスではなく、色々なジャンルだったりとか、あらゆる観てくださる皆様にとって、「もっと観たい」

という心をくすぐるようなダンスを、これから創っていきたくと思っています。

また、もう1つは“ひとつのエンターテインメントとして地域に根付く”ことです。チャリティ公演ということで、毎年、キャラホールで公演をさせていただいております。子どもたちが色々なジャンルの踊りを観て、そこからの収益を地元の、例えば沿岸地域であったりなどにチャリティとすること。私たちが踊ったことが地域貢献になり、

それが地域に根付くということをしています。

上述のように、一人でも若い世代の女の子たちが、この岩手、盛岡に残る理由のひとつになれるようにしていきたいと思っています。教育だけではなくて、芸術面や、エンターテイナーとして、もちろんダンスとしての在り方というのも忘れずに、どんどん発信していけるといいなと思っています。このように、趣味ではなく、生業としてのダンスということを考えております。

例会報告

第30回例会  
平成31年3月1日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 坂本広行会長
- ・国歌 君が代
- ・ロータリーソング (奉仕の理想)
- ・ゲスト 中條 鈴様 (リップスダンス スクール代表)
- ・会長報告 坂本広行会長
- ・功労者表彰

ロータリー財団マルチプルフェロー:

- 田中堯史会員・長野隆行会員
- 西島光茂会員・村井研一郎会員
- 飯塚 肇会員・近藤 駿会員
- 荻野忠良会員

ロータリー財団ポールハリスフェロー:

- 荒川鉄平会員・坂本広行会員

吉江信博会員

- ・皆出席バッチ 白石 茂君 (30年)
- 佐藤仁志君 (5年)
- ・入会祝 白石 茂・坂本広行君
- ・誕生祝 白石 茂・荻野忠良
- 近藤 駿・荒川鉄平・長谷川久晃
- 佐藤重昭・金沢 滋・田村賢一君
- ・結婚祝 飯塚 肇・長野隆行
- 岩野法光・畠山将樹君
- ・幹事報告 藤村吉隆幹事
- ・終了後定例理事会
- ・委員会報告

【ニコニコBOX】

- ◆小川 惇君…盛岡ロータリークラブ創立80周年記念式典祝賀会はスマートとの評価でした。白石実行委員長はじめ実行委員会の皆さんのご努力に感謝申し上げます。

次の地区大会もよろしくお願いたします。

又、いただいたお花は魔法の水のせいか1週間たっても、まだしおれずに咲いています。ありがとうございました。

- ◆荻野忠良君…先日の80周年記念式典で飲みすぎ、ショルダーバッグを忘れてきましたが、翌日岩野さんがわざわざ届けてくれたのでニコニコします。

●メイクアップ

- 地区=塚田君。
- 仙台南R.C.=橋本君。
- クラブ委員会=畠山・飯塚・岩野
- 駒木・長澤・西館・石田・大泉
- 大平・佐藤 (仁)・千崎・田村
- 豊岡・土屋君

出席報告

会員数/78名

出席数/41名

出席率/56.16%

前々回/88.00%



プログラムのお知らせ

- ・ 3月8日(金) 新入会員卓話 正司園祐司会員「私がうち込んだこと」
- 15日(金) ゲスト卓話 (フードバンクいわて)
- 22日(金) 特別休会
- 29日(金) 地区大会説明会
- ・ 4月5日(金) 新入会員卓話 石田亨会員
- 12日(金) 会員卓話 佐藤重昭会員

●本号編集担当/大平 騰一